

2022 SUPER FORMULA Team Report : Round 7 & 8

2022.8.24

Round 7&8 モビリティリゾートもてぎ(4.801km)

佐藤蓮、三宅淳詞ともに第7戦はQ1敗退なるも、2レース制を生かし、第8戦はQ2進出

- ・53号車の佐藤蓮、第7戦は12位、第8戦で7位フィニッシュ、4ポイント獲得
- ・55号車の三宅淳詞、第7戦は追突によるDNF、第8戦は15位でチェッカー

第7戦

- | | | |
|-----------|-----------|-------------|
| ・予選:8月20日 | 天候:曇り、26℃ | 路面:ドライ、35℃ |
| ・決勝:8月20日 | 天候:雨、26℃ | 路面:ウェット、35℃ |

◆53号車 佐藤 蓮

予選: 15番手(1分31秒522)
決勝: 12位

◆55号車 三宅 淳詞

予選: 16番手(1分31秒525)
決勝: DNF



第8戦

- | | | |
|-----------|-----------|------------|
| ・予選:8月21日 | 天候:曇り、27℃ | 路面:ドライ、32℃ |
| ・決勝:8月21日 | 天候:晴れ、31℃ | 路面:ドライ、45℃ |

◆53号車 佐藤 蓮

予選: 10番手(1分30秒750)
決勝: 7位

◆55号車 三宅 淳詞

予選: 9番手(1分30秒730)
決勝: 15位





8月20-21日に2022年全日本スーパーフォーミュラ選手権の開幕富士大会以来となる2レース制のもてぎ大会が開催され、TEAM GOHの53号車をドライブする佐藤蓮は、第7戦は15番手スタートで12位、第8戦は10番手からスタートして3つポジションアップの7位フィニッシュ、4ポイントを獲得しました。

また、55号車の三宅淳詞は、第7戦は16番手からスタートし、終盤セーフティカー導入中に前車に追突してリタイア、第8戦では9番手からスタートしながらも、スタートで出遅れたことと、ピットインの際にフロントジャッキにトラブルがあったことが影響し、15位でチェッカーを受け、もてぎ大会を終えました。

10月に開催される鈴鹿での2戦を残し、現時点で佐藤はトータル14ポイント、三宅は18ポイントを獲得しています。今季のルーキー・オブ・ザ・イヤーはこの2人のチームメイト同士での争いとなっており、53号車と55号車、それぞれのチームが闘志を燃やしています。



◆チーム監督 山本雅史 のコメント

「まず53号車の蓮くんですが、第7戦は、金曜日のFPからセットアップで色々チャレンジし過ぎてしまい、良いところに収まらないまま予選を迎えてしまいました。予選でFPからのベストラップは出せたものの、周りの方が我々よりも良いクルマ作りをしてきた、ということだと思います」

「決勝は、レコノサンスが終わりグリッドに着いた後で雨が降り出し、完全にウェットとなったので、グリッドでセットアップをウェットの方向に修正しました。タイヤマネジメントしながら我慢のレースでしたが、終盤にポイント圏内がみえてきたところで、頑張り過ぎてコースオフしてしまったのは悔やまれるものの、これも経験です」

「日曜日、第8戦の予選は30秒750で10番手ということで、勝負ができる範囲に入れました。ウォームアップでも前日の反省点を踏まえたセットアップで良い方向性がみつき、決勝も、スタートで順位を落とすこともなく、徐々に順位をあげていけました。戦略的にも、レースラップが良かったので、ロングで引っ張る作戦で、最後はOTSを使い切っていこうとプッシュしたのですが、サツシャ選手を抜くことはできませんでした」

「課題はやはり予選でもう少し上位に行くということです。レースの内容自体は収穫があったので、最終ラウンドの鈴鹿に向けて準備を進めます」

「55号車の三宅君は、予選は53号車と同じ方向性で動いていたので、53号車と55号車の結果は同じような感じになり、良いところに収めることができずに16番手でした。決勝は最後までスリックでいか迷っていましたが、雨の量が多くなり、ぎりぎりウェットにする判断をしました」

「レースはなかなかペースを上げられずに苦しみましたが、SCが入った後にフォーメーションが崩れ、前車に近づこうとして、水しぶきで全く見えない中、追突してしま



い、三宅君はリタイアとなりました。でも方向性は間違っていないと思っていましたので、その日のミーティングで翌日曜日についてつめました」

「日曜日の第8戦はQ1突破して予選9番手だったのですが、スタートで順位を落としました。その後のレースペースは悪くなかったので、53号車と同じく引っ張る作戦でいき、53号車よりも少し後にピットインしたのですが、ピットワークでフロントジャッキに誤作動が出てしまい、結局集団の後にコースに戻るようになってしまい、それが残念でした」

「今日は2台ともに入賞でポイント獲得できる可能性があったので、残念でした。ただ、方向性は十分に戦えるということが証明できたと思いますので、鈴鹿に向けて準備を進めます」



◆53号車ドライバー 佐藤蓮 のコメント

「第7戦の予選は金曜日のFPからの不調を解消しきれずに、15番手に沈んでしまい、また、同日午後の決勝は雨でコンディションも大きく変わり、とてもタフでした。結果的にポジションを3つあげてフィニッシュすることができましたが、土曜日のレースはドライもレインも、それぞれに課題が残る1日となりました」

「ただ日曜の予選に向けて改善の方向性は見えていたので、まずはQ1突破できるように土曜に分析を進めました」

「予選でQ1突破した第8戦決勝ではスタートが上手くいき、ポジションアップができたのですが、その駆け引きの中で右フロントにフラットスポットを作ってしまった。そこで振動が出ていたのですが、ペース自体は悪くなくて、ステイートを引っ張る作戦でいきました。それがうまくはまって、7位でフィニッシュすることができました」

「日曜日の第8戦のレースを振り返ると、やはり予選でもう少し前にいかないといけないと痛感しました。鈴鹿までにチームでしっかり準備をして、表彰台にのれるように頑張りたいと思います」

◆エンジニア ライアン・ディンゲル のコメント

「土曜の予選タイムは、前日のFPから考えると悪くなかったものの、ライバル達の改善幅が自分たちのそれよりも大きく、15番手という結果になりました。決勝はウェットで、ドライバーは前が見えず、またタイヤコントロールも重要になってくる中、皆同じように苦しかったと思います」

「日曜の決勝はドライにだろうと予想していましたが、朝の予選は完全にドライになるのかダンプが残るのか微妙でした。土曜日の夕方以降に、第7戦の反省点についてドライバーとチームメンバーでしっかり話し、データを確認した上



で、日曜の予選に向けてクルマのレベルアップはできたと思います。スタートポジションは土曜日よりも良かったのですが、もう少し前に出られれば、レースが楽になると思います」

「第8戦のレース自体は、良い発見もあり、それをしっかり生かすこともでき、レースペースも良く、また、スタートで順位を落とすこともなく、2周目でよく松下選手のことをおさえてポジションキープができたと思いますし、クリーンなレースで、戦略的にもよかったと思います」

「鈴鹿はまた特性の異なるサーキットですが、このもてぎ大会で学んだことをしっかり生かせるように準備をして、次も2レース制ですが、1レース目から表彰台を目指したいと思います」





◆ドライバー 三宅淳詞 のコメント

「もてぎは抜きにくいコースなので、予選と、決勝のスタートが大切だと思っていました。金曜日の走り出しでは、中盤まで上位グループにいられたのですが、僕がクルマのフィーリングをすぐにフィードバック、対応してしまったことが裏目に出て、刻々と変化する路面コンディションなどに対して、逆に後手にまわってしまったところが反省点です」

「FP から土曜日の予選に向けてみつかった課題もありましたが、セットの修正と自分のドライビングの修正、両方が不足していて、タイムを伸ばしきることができず第7戦のグリッドは 16 番手となりました」

「金曜日の FP では気温も高く、ダスティな路面状況の中でも上位グループで走れていたため、クルマのポテンシャルはかなり高いと思いました。データを見直し、ドライビングの変更についても確認して、第 8 戦の決勝は前からスタートできるよう準備しなければと思いました」



「土曜日、レース終了後に僕自身のドライビングについて悪い部分を伊沢拓也アドバイザーから指摘され、日曜日の朝はいきなり予選だったのですぐさま改善することは難しかったのですが、なんとか改善の方向に修正ができ、クルマのセッティングも良くなっていたので第8戦はQ1 突破ができました。Q2 はもう少し曲がるクルマにした方が良かったのかなとも思いますが、なんとか 9 番手、一桁のグリッドを確保できたので、ここ数戦の流れの中では良かったです」

「決勝はスタートで出遅れてしまいました、マシンバランスも周りのクルマのポテンシャルと比べても良かったと思いますし、なんとか追いつけていく展開ではあったのですが、終盤のピットインでトラブルがありロスしてしまい、上位でゴールはできませんでした。でもここ 2 戦接触でリタイアが続いていたので、後方ではありますがチェッカー受けられて、流れをかえるという意味でも良かったと思います。また、ロングペースもトップと比べればまだまだですが、金曜日の FP や土曜のレースと比べて良い方向に向かっているのは確かです。次の鈴鹿はルーキーの僕が既に走った経験があるサーキットですし、2 戦ともに予選から上位にいけるよう頑張ります」

◆エンジニア 岡島慎太郎 のコメント

「土曜日の予選 Q1 のトップタイムは、コンディションの違いもありますが、昨年の SF もてぎ大会のポールタイムよりも速いもので、我々としてはコンディションに対する合わせ込みが不足していたと思います。翌日曜日の予選に向けてはセットアップのコンセプトから大幅な見直し、修正が必要だと考えました」

「第7戦決勝は、ウォームアップの時点ではドライだったのですが、ドライのセット確認をしたのですが、アンダーが強くなってしまっていました。レースでパフォーマンスが低くなるため、グリッドで修正するアイテムを加えたのですが、レースはウェットになってしまいました。決勝序盤はペースが



上がらずに苦しみましたが、内圧が上がって落ち着いてからはペースも改善ができ、また、コンディションの違いはありましたがアンダーについても改善でき、良いデータもとれました。日曜日、もてぎでの2戦目に向けてはトップに対して速さが不足していることもあり、予選だけでなくレースセットの見直しました」

「土曜日課題となった部分と、セットアップのコンセプト自体を見直して日曜日、ラウンド8の予選にのぞみ、Q1突破できたことがまず良かったです。クルマのパフォーマンスも技術レベルもラウンド7よりかなり改善できていました。今回2レース制ということで、1レース目での課題を2レース目で改善するということができ、良かったと思います。トップと比べるとまだタイム差があるので、まだ何かしら策を施してパフォーマンスを上げていく必要があります」

「日曜のレースについては、ロングランのセットが土曜のウォームアップと同じようなバランスになってしまい、うまく問題点を改善することができませんでした。レースのロングランについては53号車の方がバランスが良いようなので、そのデータを分析し、鈴鹿に生かせる良い部分はこちらでも取り入れたいと思います」

